仕事のスイッチ

私が仕事を決めたとき

今、何のために勉強しているんだろう？　どうすれば、なりたい職業に就けるのかな？　夢や目標があると自然に"やる気"がわいてくる！
色々な仕事で輝いている先輩に、気になる"仕事スイッチ"の話を聞いてみよう。

医師／内科医

そめや内科クリニック 院長　染谷 貴志さん

日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医。1995年、東京慈恵会医科大学卒業後、虎の門病院消化器科勤務を経て、2006年にそめや内科クリニックを開院。地域に密着した医院づくりを目指して日々奮闘中。

なりたい自分を突き詰めた

「人と接する仕事がしたい」という想いが最初にあった。

僕が内科医という職業を意識し始めたのは、高校生になって進学について考えるようなってから。もともと中学生のときに考えていたのは、「人と接する仕事がしたい」ということでした。　父親が法学部卒だったので、はじめは僕もなんとなく法学部に行って弁護士になろうと思っていたんです。ところが、高校2年生くらいになって受験が迫ってくると、法学部へ行くなら、苦手な文系科目を相当がんばらないといけないという現実に直面してしまいまして(笑)。

当時僕が通っていた高校は、今どきの進学校みたいに文系と理系がきっちり分かれている学校ではなく、すべての教科をまんべんなく学ぶスタイルでした。もともと僕は小学生のころから本を読んだり自分で調べたことを発表したりすることは好きでしたが、試験のための勉強はほとんどしない子どもだったので、理屈を理解すると答えを導き出せる数学や化学は得意な反面、現代文はともかくとして、古文や漢文、歴史など、暗記が必要な文系科目は大の苦手でした。

どうやら自分は理数系で受験した方がいいらしいと気づいたときに、人と接する仕事として最初に思い浮かんだのが"医師"だったんです。

医学部は、医師への道。将来のイメージが明確だった。

なぜ医師だったのか。一番大きな理由は、親戚に歯科医が多かったこと。とくに祖父は開業歯科医だったので、遊びに行くと家と隣接した医院で診察を行っていました。田舎だったので、休みの日でも患者さんが来ると、病院の玄関を開けずに家の方から診察室に通して治療していたりもしましたね。時代もあるでしょうが、そこには人と人との付き合いが当たり前のようにありました。幼い頃から見ていた祖父の働き方が、僕の進路のイメージとつながったんです。

それに医学部へ進むということは、医者になるということとほぼイコールで、将来的に働いているイメージが明確でした。今の子どもたちって、何も考えないといい大学に入ることがゴールになってしまうじゃないですか。そういう意味では、うちの高校が受験志向じゃなかったからこそ、どこの大学がいいんだってことをあまり知らずに、より長いスパンで将来を見